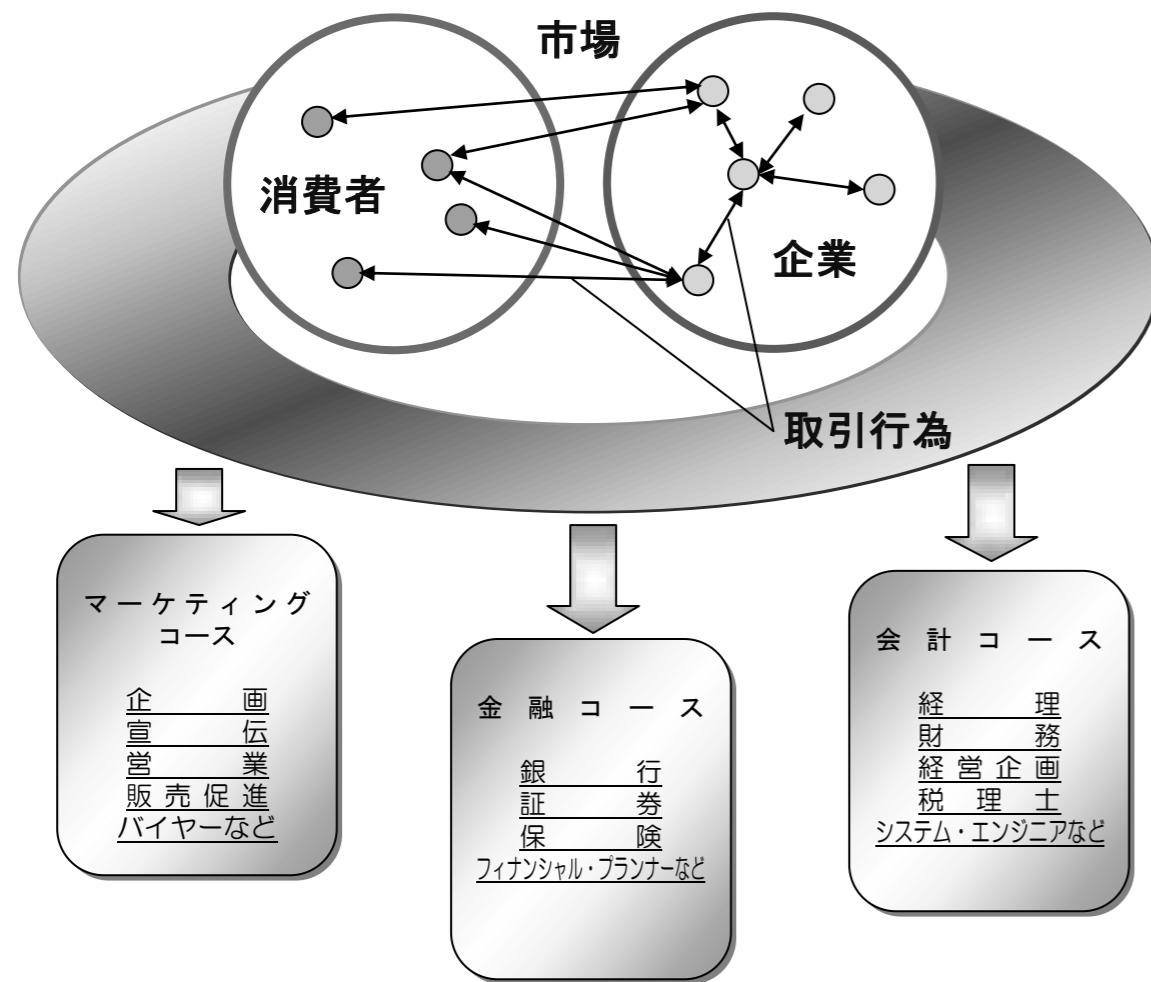


3. 商学部4年間の学び

商学部の学び = 取引行為
相手の存在なくしては、成立しない学び

商学部の学びは、経済社会においてあるいは企業経営において、とくに経営上の取引行為を対象にした領域です。取引行為は、市場において「企業」と「企業」の間で、あるいは「企業」と「消費者」との間で取引相手との関係において行われます。

商学部の学び（イメージ）



▼各コースの研究対象▼

- マーケティングコース：企業や消費者との関係から販売、仕入、流通といった取引行為。
- 金融コース：企業の取引を支えるために行なわれる信用にもとづいたマネーを融通する仕組み。
- 会計コース：取引行為を記録し管理し情報を提供する仕組み。

1年次では、各コースの専門科目である「マーケティング論A/B」、「金融総論A/B」および「会計学総論A/B」が配置されていますので、各コースの専門的な学習内容を体系的に理解することができます。2年次からは、各自の選択によって各コースでの専門的な知識・能力を追究するために、各コースには各自の目標達成を支援するコース専門の科目が体系的に配置されています。

※実際の履修の際には、全学共通科目など各科目の配当学年に注意すること。

	全学共通科目 (必修)	全学共通科目	学部基礎科目
1年次	英語 I / II 日本語 I / II (留学生) 基礎コンピュータ I / II	外国語 総合 体育 留学生	教養 情報
2年次	ゼミ I 商学部必修科目	マーケティング論 A/B	金融総論 A/B 会計学総論 A/B 財務会計論 A/B
3年次	ゼミ II 商学部関連科目	マーケティングコース専門科目	金融コース専門科目 会計コース専門科目 管理会計論 A/B
4年次	ゼミ III ゼミ IV		

4. コース制について

1. コースの選択について

- 専門性の探究のために2年次より全員が以下の3コースのいずれかを選択しなければなりません。
- コース登録は2年進級時の履修届登録時に本人の申請により決定します。
- コースは2年以降のゼミと密接に関係しますのでゼミ募集時（概ね1年次の11月）のゼミ選択の際に十分に考慮してください。
- 他コースへの変更はコース登録した翌年（通常は3年次）に1度だけ変更できます。
- 所属コースによって卒業要件が異なります。コースを選択することは自分の専門分野を決定することです。

2. 各コース

(1) マーケティングコース

環境の変化に迅速に対応し、需要を創造してゆくための調査、意思決定、戦略の策定・実行のできる人材を育成します。

具体的には市場目標を設定し、それに向けて製品計画、価格政策、広告政策、営業政策、流通チャネル政策、物流政策、マーケティング情報等によって構成されるマーケティング・ミックスをもってアプローチし、需要を創造してゆくのマーケティング戦略であり、その構築、展開を実務的に立案、実行しうる人材の育成が目的となります。

▼観光・地域プログラムについて▼

観光・地域プログラムは、将来、観光や不動産、地域関連の業務に携わろうとする学生を対象とするプログラムであり、商学部のマーケティングコースの専門科目と商学特別講義から構成されます。

①プログラムの趣旨

本学の創設者である川田鐵彌先生は、明治41年（1908年）に民間による日本初の世界一周旅行に参加し、『欧米遊記』を著しました。国際性の重要性を説き、諸外国の優れた制度の導入を主張した同書には商業大学の設立を訴えるものがあり、その成果の一つが、大正3年（1914年）に開講された高千穂高等商業学校となります。

広く見聞を広める国際性は、近年では日本国内でも各地で見ることが出来ます。特に、我が国ではモノからコトを重視した消費へと変化してきております。そこで、高千穂大学商学部では、川田先生の理念を発展させるため、観光やサービスを中心としたライフスタイルの確立を実現すべく、観光・地域プログラムを設置しました。

②プログラムの履修

2年次に選択するコース選択時より、履修モデルに従って、マーケティングコース科目、関連科目および語学・教養科目を学びます。特に観光マーケティング論、地域ビジネス論、サービス・マーケティング論 A/B は中心科目となります。

3年次春には、「商学特別講義」を履修し、問題解決型の学習を行います。

③受講資格

プログラムは、希望するものであれば、受講することが出来ます。商学特別講義の履修は必須となります。

(2) 金融コース

金融は、信用に基づいてマネーを融通する仕組みであり、企業活動ならびに消費生活の密接不可分の要素です。金融の主な担い手は銀行、証券、保険業等の金融業種です。本コースにおいては、これらの金融業種の仕組みと機能等を学習しますが、金融に関する理論は主に経済学の理論をベースとしていますから、その学習が欠かせません。

銀行についてはその制度・機能及び金融理論等を、証券については投資理論及び証券市場等を、保険についてはその仕組み及び損害保険・生命保険の特徴等を、それぞれの制度と理論の面から学習します。

▼ファイナンシャルマスタープログラムについて▼

金融業界を目指す学生を対象とし、金融の専門科目を学びながら、関連した資格取得を目指します。また、専任教員が資格取得やキャリア形成のサポートを行います。このプログラムによってFP3級や2級、証券アナリスト1次試験科目合格、証券外務員試験2種合格、損保一般試験合格、宅建などを目指します。

(3) 会計コース

企業活動の状態や結果を、会計学固有の計算方式に基づいて記録、報告するとともに、会計情報に基づいて将来の企業活動に貢献する資質を育成するコースです。

本コース履修者は、会計固有の概念や方法を熟知するとともに、広い視野を合わせてもって企業の諸活動に精通することが求められます。

基礎的な段階においては会計処理を中心とする会計情報の作成に関する概念と方法の学習が求められます。応用段階においては、会計とそれを取り巻く関連諸科学との有機的関連性に重点を置きつつ、会計情報の作成とその活用的側面に関する概念および方法を身につけることが要求されます。またすべての会計処理において、コンピュータ化への対応が不可欠となっています。

▼税理士養成プログラムについて▼

税理士養成プログラムは将来、職業会計人としての税理士を志望し、税理士試験合格に向けて熱意をもって、積極的に自助努力する学生を支援するプログラムであり、商学部の会計コースで専門科目として開講する科目群のことです。

① 開講科目

春学期	秋学期
税理士・簿記論（基礎）	税理士・簿記論（応用）
税理士・財務諸表論（基礎）	税理士・財務諸表論（応用）
税理士・税法（基礎）	税理士・税法（応用）

春学期に（基礎）、秋学期に（応用）を開講します。

「税理士・税法」は（基礎）、（応用）とも2時限連続開講科目です。

② 履修科目と試験科目との関連性

本プログラム履修者は、税理士としての高度な専門的・実務的な知識を身につけるために、理論面の学習に重点をおき、応用力のある知識体系を身に付けることを目指します。将来税理士として活躍するためには、専門知識のみならず幅広い知識と教養を身に付けることも重要です。本プログラムの具体的な目標は、大学在学中に「簿記論」「財務諸表論」の2科目の取得です。科目免除制度を活用すれば、大学院への進学により、在学中に税法1科目に合格し、加えて学位取得することにより、最短で6年間で税理士資格の取得も可能となります。一定の条件を満たした学生は、1年次からプログラム科目を受講することが可能となり、短期間で税理士資格取得を目指すことができます。

	学部								大学院	
	1年		2年		3年		4年		1年	2年
	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋		
税理士養成プログラム	簿記論(基礎)	簿記論(応用)	財務諸表論(基礎)	財務諸表論(応用)	税法(基礎)	税法(応用)			学位取得(税法2科目免除)	
税理士試験					簿記論・合格		財務諸表論・合格		税法1科目・合格	

※なお、当該プログラムの受講者は、成績内容により本学大学院への入学試験において優遇措置があります。

③ 受講資格

税理士養成プログラムを受講するには、日商簿記2級、全商簿記1級（会計・工業簿記の2科目）および全経簿記1級（会計・工業簿記の2科目）のいずれかの資格を有していること、年度初めに行なわれる面接を受け合格した者が受講を認められます。

④ 税理士と試験制度

税理士とは、法人や個人の依頼にもとづき、申告、申請、請求などの税務代理、税務申告書類の作成や税務に関する相談に応じるなど、税金に関する業務を行う国家資格にもとづく専門家です。

税理士試験は税法と会計学について年1回試験が実施され、合格するためには最終的に税法3科目、会計学2科目に合格しなければなりません。会計学に関する科目は、「簿記論」と「財務諸表論」で両科目とも必須です。税法に属する科目は、所得税法、法人税法、相続税法など合計7科目あり、所得税または法人税のいずれかは必須科目となっています。

税理士試験においては、年1回の試験のほか、試験科目のうち一部の科目について試験を免除する制度があります。税法に属する科目でいえば、大学院で税理士試験科目に関する研究により修士の学位を授与された者で、税法に属する科目のいずれか一科目に合格したものは、その科目以外の税法に属する科目が免除されます。つまり、大学院で研究し、学位を取得し、かつ、税法1科目の試験に合格すれば、他の3科目は免除されることになるのです。

5. マーケティングコース 履修モデル

1. 「販売・営業系」の職業を目指すための履修モデル

この履修モデルは、将来流通業の販売部門や製造業等の営業部門で活躍することを希望する学生のためのものです。

コース科目では、特に「流通経営論A/B」、「サービスマーケティング論A/B」に力を入れて学習することが望まれます。

関連する学習としては、課外講座の利用による「販売士検定」の取得が推薦されます。また、外国語の習得にも力を入れることを希望します。

2. 「広告系」の職業を目指すための履修モデル

この履修モデルは、将来企業の広報・宣伝部門で活躍することを希望する学生のためのものです。

コース科目では、特に「広告論A/B」、「マーケティング情報論A/B」に力を入れて学習することが望まれます。

関連する学習としては、情報関連分野の科目の履修が推薦されます。

3. 「調査・企画系」の職業を目指すための履修モデル

この履修モデルは、将来マーケティング・リサーチ会社などの調査専門会社、シンクタンク等で研究員として活躍したり、企業で商品企画等の部門で活躍したりすることを希望する学生のためのものです。

コース科目では、特に「消費者行動論A/B」、「市場調査論A/B」に力を入れて学習することが望まれます。

6. 金融コース 履修モデル

1. 「銀行系」の職業を目指すための履修モデル

銀行の行う業務の拡大が進んでいます。銀行業務を担うプロとして必要不可欠な銀行関連の理論を理解するだけでなく、経済・金融全般にわたる知識の習得を目指します。そのため、「銀行論 A/B」と経済・金融の全般的な科目の履修を提示しています。

2. 「証券系」の職業を目指すための履修モデル

証券市場の重要性が増す中で、証券の業務と制度の変化が起きています。証券業務を行うプロとして必要不可欠な証券投資の理論や制度を理解し、投資や資金調達の業務全般を行えることが目標となります。そのため、資金運用と資金調達関連の科目の履修を提示しています。

3. 「保険系」の職業を目指すための履修モデル

将来の不透明性が増すにつれて、リスク管理が重要となっています。保険業務というリスク管理のプロとして必要不可欠な保険関連の理論や制度、およびその他のリスク管理に関する知識の習得を目指します。そのため、「保険論 A/B」とリスク管理関係の科目の履修を提示しています。

7. 会計コース 履修モデル

1. 「財務会計系（経理・財務）」の職業を目指すための履修モデル

この履修モデルは、将来企業の経理部や財務部といった部署において、会計のエキスパートとして活躍することを希望する学生のためのものです。とくに、決算書作成の業務が行えるような知識を体系的に身に付けるため、「財務会計論 A/B」を中心に財務報告制度の歴史、法体系、理論を中心にした専門科目の履修を提示しています。

2. 「管理会計系（経理・財務、経営管理、システム・エンジニア）」の職業を目指すための履修モデル

この履修モデルは、将来企業の経理部や財務部といった部署はもちろんのこと、管理業務や情報システム部といった他の部署において会計的知識を有したエキスパートとして活躍することを希望する学生のためのものです。とくに、情報機器を駆使しながら会計情報の作成から分析までを行えるように、「管理会計論 A/B」を中心とした専門科目の履修を提示しています。

3. 「税理士系（一般）」の職業を目指すための履修モデル

この履修モデルは、将来会計専門家として活躍することを希望する学生のためのものです。とくに、税金に関する業務を行う国家資格である税理士資格試験を目指す学生を対象に、資格試験の科目受験に関連する専門科目の履修を提示しています。

4. 「税理士系（飛び級）」の職業を目指すための履修モデル

この履修モデルは、将来会計専門家として活躍することを希望する学生のためのものです。とくに、税金に関する業務を行う国家資格である税理士資格試験を目指す学生を対象に、税理士養成プログラムの履修を前提にして、税理士に不可欠な知識の習得や資格試験の科目受験に関連する専門科目の履修を提示しています。またこのモデルは、入学前に取得した簿記検定にもとづいて単位認定される「資格認定制度」、および2年次配当の科目を1年次で履修できる「飛び級履修制度」の適用を前提としています。

8. 教育プログラム表について

教育プログラム表の見かた

- ①「専門的知識とスキルの修得」の欄に各コース・専攻の学習到達目標が示されています。
- ②「科目名」の欄に各コース・専攻に配置されている専門科目がすべて挙げられています。各科目が担っている目標項目は◎（特に重要な目標項目）と○（重要な目標項目）で示されています。
- ③「当該科目を受講する前に履修してほしい科目」の欄に各専門科目を受講する前に履修してほしい科目は何かが示されています。これは履修の前提条件となる「前提科目」とは異なりますが、各コース・専攻の学習到達目標を達成するためには、これを念頭に置いて履修することが望ましいと考えられます。
- ④「履修モデル（ガイド）」の欄に、いくつかの職業イメージや学習内容に対応する履修すべき科目が◎（特に履修すべき科目）と○（履修するのが望ましい科目）が示されています。

★専門科目を履修する際には、必ず上の①～④を確認してから、履修科目を決めましょう。

教育プログラム表

全学共通科目

到達目標	到達目標の具体的内容	履修年次	対応科目	
【全学共通科目】 （専門的知識とスキルの修得） 自己学習力 （知的・好奇心の涵養）	①外国語基礎	1～	英語 I (Bレベル・Cレベル) / 英語 II (Bレベル・Cレベル) / 基礎英語 (文法・読解) / 基礎英語 (リスニング・作文) / 英会話 / ビジネス英語	
	(1)言語	②外国語発展	1～ 2～	日本語 I (概説・表現) / 日本語 II (読解・表現) / 中国語 I / 中国語 II / 基礎日本語 (文法) / 基礎日本語 (会話) / 基礎日本語 (文法) / 基礎日本語 (会話)
		③海外留学・海外研修	1～ 2～	英語 I (Aレベル) / 英語 II (Aレベル) 上級英会話 / 上級英作文 / TOEIC英語 / TOEFL英語 中国語 II (会話) 中国語 II (読解) / 中国語 II (作文)
	(2)体育	2～	中期留学事前英語演習 / 中期留学事後英語演習	
(3)総合	2～	短期留学事前中国語演習 / 短期留学事後中国語演習		
(4)日本の文化・社会【留学生用】	(2)体育	1～	健康体力づくり / 生涯スポーツ (各種目) / 健康生涯スポーツ	
	(3)総合	2～	総合科目 (春) / 総合科目 (秋)	
	(4)日本の文化・社会	1～	日本の文化と歴史 / 日本の産業と社会	

学部基礎科目

【学部基礎科目】 （知的・好奇心の涵養） 自己学習力	(1)情報	①情報基礎	1～	基礎コンピュータ I / 基礎コンピュータ II / コンピュータ概論 I / コンピュータ概論 II
		②情報発展	1～ 2～	情報リテラシー / 情報社会論 応用演算 (演算) / 応用演算 (マクロ) / 基礎707 / シンク II / 基礎707 / シンク II / データベース I / データベース II / 707 / 707 / 707 II / 情報ネットワーク I / 情報ネットワーク II / データベース言語 SQL I / データベース言語 SQL II
(2)教養	①人文領域 ②社会領域 ③自然領域	①人文領域	1～	日本史 (古代・中世・近世) / 日本史 (近代・現代) / 外国史 (古代・中世) / 外国史 (近代・現代) / 日本文学 / 日本文学史 / 自然地理学 / 人文地理学
		②社会領域	1～	経済学 (ミクロ基礎) / 経済学 (マクロ基礎) / 憲法 (人権) / 憲法 (統治) / 法律学 (生活と法) / 法律学 (社会と法) / 政治学 / 国際政治
		③自然領域	1～	基礎数学 (代数・幾何) / 数学 (確率・統計) / 地球科学 / 宇宙科学 / 生命科学 / 物質科学 / 心身の科学

マーケティングコース

学習到達目標				専門的知識とスキルの修得(マーケティングコース)								
区分	分類	科目名	履修年次	①マーケティングの概要について理解する								
				②企業環境とマーケティング戦略について理解する	③消費者行動について理解する	④マーケティング情報について理解する	⑤製品・サービスについて理解する					
<p>具体的イメージとレベル (達成度合いを示す具体的な一達成度を評価する判断基準)</p>				販売・営業系	広告系	調査・企画系						
学部必修科目	簿記 I	1~	◎	◎	◎							
	簿記 II	1~	◎	◎	◎							
マーケティングコース専門科目	必修科目	マーケティング論A	1~	◎	◎	◎	◎					
		マーケティング論B	1~	◎	◎	◎						
	選択必修科目	広告論A	2~	○	◎	○						
		広告論B	2~	○	◎	○						
		消費者行動論A	2~	○	◎	◎						
		消費者行動論B	2~	○	◎	◎						
		市場調査論A	2~	○	○	◎						
		市場調査論B	2~	○	○	◎						
		物流論A	2~	○	○							
		物流論B	2~	○								
		流通経営論A	2~	◎	○	○						
		流通経営論B	2~	◎	○	○						
		マーケティング情報論A	2~		◎	◎						
		マーケティング情報論B	2~		◎	◎						
		サービスマーケティング論A	3~	◎	○	○						
		サービスマーケティング論B	3~	◎	○	○						
		流通論A	3~	◎	○	○						
流通論B	3~	◎	○	○								
観光マーケティング論	3~	◎	◎									
地域ビジネス論	3~	◎	○									
その他科目	全学共通科目	経済学(ミクロ基礎) (マクロ基礎)	1~									
		心の科学	1~									
	商学部他1系科目	金融総論A/B	1~									
		会計学総論A/B	1~									
		銀行論A/B	2~									
		証券論A/B	2~									
		保険論A/B	2~									
		財務会計論A/B	2~									
		管理会計論A/B	3~									
		リスクマネジメント論A/B	3~									
		経営分析A/B	3~									
		企業法(企業形態法) (株式会社法)	2~									
	商学部関連科目	キャリアデザイン論A/B	2~	○								
		経済法A/B	2~	○								
		地方自治A/B	2~		○							
		経済地理学A/B	2~									
		外書講読A/B	3~									
		企業法(知的財産法) (有価証券法)	3~									
		行政法A/B	3~									
		税法A/B	3~									
		地域開発論A/B	3~	○	○							
		法文化論A/B	3~									
	経営学部専修科目	民法(契約)(物権変動と担保)	3~									
		労働法A/B	3~									
経営学概論A/B		1~	○	○	○							
経営管理論A/B		2~	○									
経営戦略論A/B		2~	○									
	経営組織論A/B	2~	○									
	国際経営論A/B	3~	○	○								
	販売管理論A/B	2~	○	○								

専門的知識とスキルの修得(マーケティングコース)					⑩商学部での専門的な学びを補完する知識を得ている	⑪商学部の学びの基礎として、ビジネス言語である簿記の基礎知識を得ている
⑥価格について理解する	⑦チャネルとロジスティクスについて理解する	⑧流通機関と流通構造について理解する	⑨コミュニケーションについて理解する			
・企業の価格決定に影響する内的要因を列挙できる。	・企業がマーケティングチャネルを利用する理由を説明し、それらのチャネルの機能を議論することができる。	・各流通機関の役割を説明できる。	・広告戦略を説明できる。	・流通の基本的な流れと歴史を説明できる。	・ビジネスにおけるさまざまな活動の前提となる経済の仕組みや法律などについて理解している。	・企業を対象に、取引の記録から財務諸表の作成までの一連の処理手続きを理解している。
◎	◎	○	◎	◎		
					◎	
◎						
		○		◎		
○						マーケティング論A/B
						マーケティング論A/B
						マーケティング論A/B、心の科学
						マーケティング論A/B、心の科学
						マーケティング論A/B
	◎				○	
	◎				○	
	○	◎				マーケティング論A/B
	○	○	○			マーケティング論A/B
	○					マーケティング論A/B
			○			マーケティング論A/B
	○	◎			○	
○	○	◎			○	
○	○	○				マーケティング論A/B
○	○	○				マーケティング論A/B

当該科目を受講する前に履修してほしい科目

金融コース

学習到達目標				専門的知識とスキルの修得(金融コース)			
区分	分類	科目名	履修年次	履修モデル(ガイド)			
				①日本経済と経済学を理解する	②日本の金融制度と銀行の役割を理解する	③証券とそれに関する理論を理解する	④保険とそれに関する理論を理解する
<p>具体的イメージとレベル (達成度合いを示す具体的な例→達成度を評価する判断基準)</p>				<p>ミクロ経済学での価格決定理論を理解でき、次の概念を理解できる。(需要曲線と供給曲線、消費者の効用最大化行動、企業の利潤最大化行動、市場均衡、市場の失敗、経済厚生、異時点間の消費決定)</p> <p>マクロ経済学での金融政策、財政政策を理解でき、次の概念を理解できる。(国民総生産、消費理論、貯蓄理論、IS-LM分析、財政政策の効果、AD-AS分析、物価水準の決定、経済成長モデル、景気循環)</p> <p>日本経済の現状を説明できる。(日本の国民所得の状況を説明できる。日本の経済の発展と成長を理解できる。経済における金融の機能・役割を説明できる。日本経済における政府の役割を説明できる。)</p>	<p>銀行の役割を説明でき、次の概念を説明できる。(預金と貸出、信用創造、審査機能、情報の非対称性、モラル・ハザード、運転資金と企業倒産、BIS規制)</p> <p>中央銀行の役割と金融政策を説明でき、次の概念を説明できる。(発券銀行、通貨信用、金本位制離脱、資金供給、公開市場操作、当座勘定、アナウンスメント効果、銀行の銀行、預金保険)</p> <p>日本の金融機関を理解する。(銀行、証券会社、保険会社の違いを説明できる。戦後の金融制度を説明できる。日本の金融制度の変化を理解できる。)</p>	<p>証券市場について説明でき、次の概念を説明できる。(エージェンシー関係、社債市場、イールド、新株予約権付社債 社債格付け、企業の資金調達、債権証券化、自社株買い、投資信託、M&A、機関投資家、金利、利子率の期間構造)</p> <p>株式市場について説明でき、次の概念を説明できる。(株式会社、株式市場、発行市場と流通市場、時価発行増資、優先株、配当)</p> <p>投資家の行動について理解できる。(直接金融と間接金融の違いを説明できる。投資基準を説明できる。リスクとリターンとの関係を説明できる。)</p>	<p>リスクマネジメントにおける保険の役割を理解できる。</p> <p>家計や企業における保険の役割を理解し、次の概念を説明できる。(生命保険、損害保険、リスクマネジメント)</p> <p>保険や年金、銀行貸付け、消費者信用といったサービスの基本的性質を分析するに、情報の非対称性や逆選択、モラル・ハザードの理論仮説が利用できる。</p>
学部必修科目		簿記Ⅰ	1~	◎	◎	◎	
		簿記Ⅱ	1~	◎	◎	◎	
金融コース専門科目	必修科目	金融総論A	1~	◎	◎	◎	○
		金融総論B	1~	◎	◎	◎	○
	選択必修科目	銀行論A	2~	◎	◎	◎	○
		銀行論B	2~	◎	◎	◎	○
		証券論A	2~	◎	◎	◎	○
		証券論B	2~	◎	◎	◎	○
		保険論A	2~		◎		◎
		保険論B	2~		◎		◎
		マクロ経済学A	2~	◎	○		◎
		マクロ経済学B	2~	◎	○		◎
		ミクロ経済学A	2~	◎	◎	◎	◎
		ミクロ経済学B	2~	◎	◎	◎	◎
	国際金融論A	2~	◎	○		◎	
	国際金融論B	2~	◎	○		◎	
	ファイナンシャルプランニングA	2~	◎	◎	◎	○	
	ファイナンシャルプランニングB	2~	◎	◎	◎	○	
	金融論A	3~	◎	◎	◎	◎	
	金融論B	3~	◎	◎	◎	◎	
	金融工学A	3~	○	◎			
	金融工学B	3~	○	◎			
財政学A	3~			◎	◎		
財政学B	3~			◎	◎		
リスクマネジメント論A	3~	◎	◎	◎	○		
リスクマネジメント論B	3~	◎	◎	◎	○		
その他科目	全学共通科目	経済学(ミクロ基礎)(マクロ基礎)	1~	◎	◎	◎	
		基礎数学(代数・幾何)(確率・統計)	1~	◎	◎		
	商学部他コース科目	会計学総論A/B	1~	◎	◎	◎	
		マーケティング論A/B	1~		◎	◎	
		企業法(企業形態法)(株式会社法)	2~	◎	◎	◎	
		民法(法律行為)(債権)	2~			◎	
		企業法(知的財産法)(有価証券法)	3~	○	○		
		税法A/B	3~		○	○	
		民法(契約)(物権変動と担保)	3~			○	
		年金論A/B	3~			◎	

専門的知識とスキルの修得(金融コース)					
⑤国際金融とそれに関する理論を理解する	⑥投資理論を理解する	⑦企業金融を理解する	⑧デリバティブを理解する	⑨商学部での専門的な学びを補完する知識を得ている	⑩商学部の学びの基礎として、ビジネス言語である簿記の基礎知識を得ている
<p>国際経済・金融の現状を説明でき、次の概念を説明できる。(国際決済、国際通貨、国際資本移動、外国為替取引、外国為替市場、金利平價式、またIMFなど国際金融機関の役割について説明できる。)</p> <p>国際金融と各国経済の関係を説明でき、次の概念を説明できる。(国際収支、国際通貨制度、通貨統合、国際政策協調)</p> <p>国際経済理論の基礎を理解できる。(外国為替相場決定理論について説明できる。通貨危機発生論の理論について説明できる。マンデル・フレミング・モデルを説明できる。)</p>	<p>現在価値法を理解し、現実下での評価ができる。(配当割引モデルによるプロジェクトの比較ができる。年金の現在価値が計算できる。PERなどの株式の評価尺度を説明できる。)</p> <p>不確実性下の資産評価ができる。次の概念を説明できる。(ポートフォリオ理論、分散投資の効果、CAPM、ベータ、APT、ランダムウォーク理論、効率市場仮説、デュレーション、イミニゼーション)</p> <p>リスク概念を説明できる。(様々なリスク概念を説明できる。リスク回避・軽減の手法を説明できる。信用リスクを説明できる。)</p>	<p>日本の企業金融の仕組みを理解する。(銀行の融資行動を理解できる。株式発行の仕組みを理解できる。企業の資金調達の特徴を説明できる。)</p> <p>MM理論に代表される基本的な理論を理解できる。(MMの無関係性命題、エージェンシー理論、リアル・オプション、資本コスト)</p> <p>様々な企業の財務政策を理解できる。(配当政策の効果や説明できる。自社株買いの効果を説明できる。M&Aの効果も説明できる。)</p>	<p>デリバティブを説明でき、次の概念を理解できる。(先物取引、先渡し取引、裁定取引、フォワード・レート、スワップ、オプション、リアル・オプション)</p> <p>オプションの仕組みを理解し、その価格評価の基礎を理解できる。(オプションと先物を説明できる。2項モデルを計算できる。BSモデルを説明できる。様々な投資戦略を組成できる。)</p> <p>不確実性下のリスク評価ができる。(ボラティリティを説明できる。クレジット・リスクなどの様々なリスク概念を説明できる。リスク商品の価格評価ができる。)</p>	<p>ビジネスにおけるさまざまな活動の前提となる経済の仕組みや法律などについて理解している。</p>	<p>企業を対象に、取引の記録から財務諸表の作成までの一連の処理手続きを理解している。</p>
				◎	
				◎	
					◎
○			○	◎	
					金融総論A/B、経済学、簿記Ⅰ/Ⅱ
					金融総論A/B、経済学、簿記Ⅰ/Ⅱ
					金融総論A/B、経済学、簿記Ⅰ/Ⅱ
	○	○	○		金融総論A/B、経済学、簿記Ⅰ/Ⅱ
					金融総論A/B
					金融総論A/B
					経済学(ミクロ基礎/マクロ基礎)
					経済学(ミクロ基礎/マクロ基礎)
					経済学(ミクロ基礎/マクロ基礎)
					経済学(ミクロ基礎/マクロ基礎)
◎			○		金融総論A/B、経済学、銀行論A/B、マクロ経済学A/B
◎			○		金融総論A/B、経済学、銀行論A/B、マクロ経済学A/B
	○		○		金融総論A/B、経済学、銀行論A/B、証券論A/B、マクロ経済学A/B、ミクロ経済学A/B
	○		○		金融総論A/B、経済学、銀行論A/B、証券論A/B、マクロ経済学A/B、ミクロ経済学A/B
○		○	○		金融総論A/B、経済学、銀行論A/B、証券論A/B、マクロ経済学A/B、ミクロ経済学A/B
	◎				金融総論A/B、経済学、証券論A/B、ミクロ経済学A/B、基礎数学(代数・幾何/確率・統計)
			◎		金融総論A/B、経済学、証券論A/B、ミクロ経済学A/B、基礎数学(代数・幾何/確率・統計)
					金融総論A/B、経済学、マクロ経済学A/B
					金融総論A/B、経済学、マクロ経済学A/B
					保険論A/B
					保険論A/B

当該科目を受講する前に履修してほしい科目

会計コース

学習到達目標				専門的知識とスキルの修得(会計コース)							
区分	分類	科目名	履修年次	履修モデル(ガイド)				①経済社会と会計の役割に関する理解	②企業活動全般および取引に関する理解	③取引の記録・計算方法に関する理解	④会計情報の測定・伝達方法に関する理解
				財務会計系	管理会計系	税理士系(一般)	税理士系(飛び級)	・経済社会の構成や仕組みを説明できる ・経済社会における会計の役割とその重要性を説明できる ・会計の体系を説明できる	・企業の組織構造や業務活動の内容・プロセスを説明できる ・購買・生産・販売といった業務活動における主要な取引を説明できる ・経済上の取引と会計上の取引との相違が説明できる	・企業の主要な取引を仕訳によって記録することができる ・帳簿組織を理解し、各帳簿間の関係を説明できる ・貸借対照表や損益計算書といった財務諸表の作成プロセスを説明できる	・財務諸表作成に必要な会計基準の概要が理解できる ・財務諸表作成にかかわる関連法規の概要が理解できる ・会計情報利用者の利用目的を理解できる
<p>具体的イメージとレベル (達成度合いを示す具体的な例→達成度を評価する判断基準)</p>											
学部必修科目		簿記Ⅰ	1～	◎	◎	◎	◎				
		簿記Ⅱ	1～	◎	◎	◎	◎				
会計コース専門科目	必修科目	会計学総論A	1～	◎	◎	◎	◎	○		◎	
		会計学総論B	1～	◎	◎	◎	◎	○			
		財務会計論A	2～	◎	◎	◎	◎	○		◎	
		財務会計論B	2～	◎	◎	◎	◎	○		◎	
		管理会計論A	3～	◎	◎	◎	◎	○			
		管理会計論B	3～	◎	◎	◎	◎	○			
		工業簿記Ⅰ	2～	◎	◎	◎	飛	○	○	◎	
		工業簿記Ⅱ	2～	◎	◎	◎	飛	○	○	◎	
		原価計算論A	2～	◎	◎	◎	◎		◎	◎	
		原価計算論B	2～	◎	◎	◎	◎		◎	◎	
	選択必修科目	コンピュータ会計A	2～	◎	◎			○	○	◎	
		コンピュータ会計B	2～	◎	◎			○	○	◎	
		高等簿記Ⅰ	2～	◎	◎	◎	飛		○	◎	○
		高等簿記Ⅱ	2～	◎	◎	◎	飛		○	◎	○
		会計史A	3～	◎				○		◎	○
		会計史B	3～	◎				○		◎	◎
		国際会計論A	3～	◎		○	○	○	○	◎	◎
		国際会計論B	3～	◎		○	○	○	○	◎	◎
		税務会計論A	3～	○		◎	◎			○	◎
		税務会計論B	3～	○		◎	◎			○	◎
		会計情報システム論A	3～	○	◎				○	◎	◎
		会計情報システム論B	3～	○	◎				○	◎	◎
		会計監査論A	3～	○	○	○	○		○		○
		会計監査論B	3～	○	○	○	○		○		○
		経営分析A	3～	○	◎	○	○				
		経営分析B	3～	○	◎	○	○				
		税理士・簿記論(基礎)	1～			◎	◎			◎	◎
		税理士・簿記論(応用)	1～			◎	◎			◎	◎
		税理士・財務諸表論(基礎)	1～			◎	◎			◎	◎
		税理士・財務諸表論(応用)	1～			◎	◎			◎	◎
税理士・税法(基礎)	1～			◎	◎				◎		
税理士・税法(応用)	1～			◎	◎			○	◎		
その他科目	全学共通科目	経済学(ミクロ基礎) (マクロ基礎)	1～	○	○	○	○				
	商学部 関連科目	企業法(知的財産法) (有価証券法)	3～			○	○				
		税法A/B	3～	○		◎	◎				
	経営学部 聴講科目	経営学概論A/B	1～	○	○	○	○				
		経営管理論A/B	2～		◎						
	情報管理論A/B	2～		○							

専門的知識とスキルの修得(会計コース)					
⑤経営管理活動における会計情報・技法に関する理解	⑥経済的意思決定における会計情報に関する理解	⑦企業活動と税に関する理解	⑧商学部での専門的な学びを補完する知識を得ている	⑨商学部の学びの基礎として、ビジネス言語である簿記の基礎知識を得ている	
・経営管理活動のプロセスを説明できる ・管理会計と財務会計の意義と相違を説明できる ・経営管理活動に役立つ会計情報・技法を説明できる	・財務諸表などの会計情報を活用して企業を分析することができる ・投資や資金運用のための意思決定における会計情報の利用方法を説明できる ・証券市場における会計情報の役割を理解できる	・法人税に關し簡易な課税所得の計算ができる ・最近の法人税法改正に関する知識を持っている ・消費税の基本的仕組みが説明できる	・ビジネスにおけるさまざまな活動の前提となる経済の仕組みや法律などについて理解している	・企業を対象に、取引の記録から財務諸表の作成までの一連の処理手続を理解している	◎
				◎	
				◎	
◎					
◎	◎				
◎	○			○	簿記Ⅰ/Ⅱ、会計学総論A/B
◎	○			○	簿記Ⅰ/Ⅱ、会計学総論A/B
◎	○			○	簿記Ⅰ/Ⅱ、会計学総論A/B、高等簿記Ⅰ/Ⅱ、工業簿記Ⅰ/Ⅱ、原価計算論A/B、コンピュータ会計A/B、財務会計論A/B
◎	○			○	簿記Ⅰ/Ⅱ、会計学総論A/B、高等簿記Ⅰ/Ⅱ、工業簿記Ⅰ/Ⅱ、原価計算論A/B、コンピュータ会計A/B、財務会計論A/B
				○	簿記Ⅰ/Ⅱ、会計学総論A/B
				○	簿記Ⅰ/Ⅱ、会計学総論A/B
○					簿記Ⅰ/Ⅱ、会計学総論A/B
◎	○				簿記Ⅰ/Ⅱ、会計学総論A/B
				○	簿記Ⅰ/Ⅱ
				○	簿記Ⅰ/Ⅱ
	○				簿記Ⅰ/Ⅱ、会計学総論A/B、財務会計論A/B
	○				簿記Ⅰ/Ⅱ、会計学総論A/B、財務会計論A/B
	◎				簿記Ⅰ/Ⅱ、会計学総論A/B、財務会計論A/B
	◎				簿記Ⅰ/Ⅱ、会計学総論A/B、財務会計論A/B
		◎			簿記Ⅰ/Ⅱ、会計学総論A/B
		◎			簿記Ⅰ/Ⅱ、会計学総論A/B
◎					コンピュータ会計A/B、工業簿記Ⅰ/Ⅱ、原価計算論A/B
◎	◎				コンピュータ会計A/B、工業簿記Ⅰ/Ⅱ、原価計算論A/B
	◎				財務会計論A/B
	◎				財務会計論A/B
◎					簿記Ⅰ/Ⅱ、会計学総論A/B
◎					簿記Ⅰ/Ⅱ、会計学総論A/B
				○	
		◎		○	

当該科目を受講する前に履修してほしい科目

商学部関連科目

到達目標	到達目標の具体的内容	履修年次	対応科目
商学部【商学部関連科目到達目標】 での専門的な学びを補完する知識を 得ている	(1) 法律分野 ○ビジネスにおけるさまざまな活動の前提となる 法律について理解している。	2～ 3～	企業法(企業形態法)／企業法(株式会社法)／経済法A／経済法B／民法(法律行為)／民法(債権) ----- 企業法(知的財産法)／企業法(有価証券法)／行政法A／行政法B／税法A／税法B／法文化論A／法文 化論B／民法(契約)／民法(物権変動と担保)／労働法A／労働法B
	(2) ライフ デザイン分野 ○自己とキャリア理論についての理解を深め、大 学卒業後の職業生活の計画を作成する。自立した 職業生活から引退後の生活設計の柱となる年金制 度について、その理論と知識を習得する。	2～ 3～	キャリヤデザイン論A／キャリアデザイン論B ----- 年金論A／年金論B
	(3) 関連分野 ○商学部での専門的な学びを補完する知識を得て いる。	2～ 3～	地方自治A／地方自治B ----- 外書講読A／外書講読B／地域開発論A／地域開発論B／経済地理学A／経済地理学B／商学特別講義